

現代精神医学によれば、教祖には宗教妄想の疑いがあり、
神は妄想の産物であるとの見解が有力になっている。

精神医学的には、すべての宗教は、教祖の精神病から発生し、
しかも、その精神病は感染する。すべての信者は、その感染者に過ぎない、
精神医学者は、ユダヤ教は精神病の以外の何物でもない、
イエスは明らかに精神分裂病者の症状である。
ムハンマドも、精神病を発症し幻覚を見た。
ブッダも、躁鬱病の症状以外に考えられない、
ゾロアスター教の開祖も、大麻常習の精神病者であった。
天理、金光、大本、救世、天照、靈波など開祖は皆、精神病者である。
宗教は精神病者の妄想以外の何者でもないのである。

宗教妄想

自分が神から選ばれた人間であるという妄想で自分にありもしない特別な力があると信じ、
事実であるかのように認識し大きく飛躍・誇張し自分は神だ、といった類の妄想を引き起こす病氣。
誇大妄想の極限状態がこの宗教妄想です。最も危険な症状として考えられ、
一緒に憑依妄想を発症するケースもあり、幻覚・妄想などの症状が目立ちます。
宗教妄想の患者は、自分は悟りを開いた預言者だ、自分を神の生まれ変わりであると思込みます。
自分は世界の救済者である、などと妄想にふける症状が見られます。
自分に特別なパワーがあると信じて、世界平和を達成することが可能だと思込みます。
妄想がどんどん大きくなり、スケールの壮大なものになります。
誇大妄想狂グレイズムまで発展する事があり、あまりにも症状が進むと、
新興宗教の教祖になってしまいます。

憑依妄想

自分が神などにとりつかれ、言わされる行動させられるという症状が特徴。
教祖が何週間も座禅を組み、山頂に登るなどの苦行の果てに神の声を聞いたといいますが、
これは神がかり状態です。苦行の極限状態で憑依妄想になったのです。
精神医学では憑依妄想といい、人間の主体性が失われて起こる精神分裂病です。

幻覚幻聴

神の声を聞いた・神を見たなどと言っている教祖は精神分裂病者が疑われる。
精神分裂病者の症状のひとつで、幻聴幻覚妄想が生まれ、
実際にはない見えないものが見え、聞こえないものが常に聞こえ、
実際にはないものが鮮明に映る症状です。その幻覚が実際に存在しているものとして認識し、
病がひどくなると、神様の声が聞こえるという妄想の声に操られてしまいます。
この妄想は、教祖の妄想を信じる信者に伝染するものです。

祈祷性精神病

加持祈祷、まじないなど信仰儀礼の場の雰囲気や祈祷師の暗示を契機に、幻覚、幻聴、憑依妄想、宗教妄想、人格変換を症状として急性に発症する精神病。民俗事象である呪術的観念・シャーマン文化に由来する霊媒・心霊・神がかりは、精神医学的には祈祷性精神病とされる。

プラシーボ効果

手かざしによる治療効果などはない、絶大な力があるとするのは妄想である。手かざし等を受けた人が治療効果が現れた場合、それは自己暗示によってプラシーボ効果が発生し、脳からエンドルフィン・ドーパミンが分泌された自然治癒力です。

感応精神病

精神病者の症状が、周囲にいる結びつきを持った人に影響を与えて取り込まれ、宗教妄想、憑依妄想、誇大妄想、幻覚、錯乱、恍惚など同じ精神病の症状が現れる。宗教の信者は、感応精神病の感染者なのである。教祖の取り巻き連中はカネを集められるから、教祖を褒め上げ、信者に偉大な人物だと錯覚させる。修行ができていない教祖ほど自分は偉いと錯覚してしまう。そして教祖を神そのものと勘違いして同一視し、祈るようになってしまうのである。

症例

天理教 中山みき

中山みきは41歳の時、長男の病氣平癒の祈祷を修験者に依頼した。加持台の代理になったみきに神が憑依し、1838年10月26日、天理教を立教しました。中山みきの神がかり以後、神から貧に落ちきれという命令に従い、全財産を貧しい人に施したことにより中山家は没落しました。中山みきの行動は陽気暮らしの手本であるとししました。1866年にみかぐらうたを作り、1869年におふでさきを執筆しました。

金光教 赤沢文治

赤沢文治は42歳の時、扁桃腺炎にかかりその病氣平癒を祈とう師に頼んだところ、祈とう師が神がかり状態になり神託が下った。その2年後、文治の弟に金神が取り憑いた。憑依した弟の世話をしているうちに文治自身が金神に取り憑かれた。文治は金神から神命を受け、人々の願いを金神に取り次ぎ安政6年、立教しました。1868年、文治は神から生神金光大神と名乗れと神託を受け、信仰する神を天地金乃神と定め天地書附を願し信者に下附しました。

大本 出口なお

出口なおが51歳の時に夫が死去し、幼児を抱え生活が困窮していた明治25年、

出口なおに良の金神が憑依し、大本を開教しました。

神がかった出口なおに親族は動揺し、座敷牢に閉じこめました。

その時、文字の書けなかった出口なおが神の言葉、お筆先を書きました。

出口王仁三郎は、出口なおの五女すみと結婚し、大正9年、大正日々新聞を買収し布教しました。

大正10年、王仁三郎は神界の内容を口述し霊界物語として刊行しました。

生長の家 谷口雅春

谷口雅春は二股交際をしたあげく遊女から性病を移されてしまい、大正7年に大本に入信します。

昭和4念、谷口雅春は36歳の時、声が聞こえてきて神がかりとなり悟りに達しました。

翌年、月刊誌生長の家を創刊しました。昭和9年に出版社光明思想普及会を設立。

昭和15年に宗教結社生長の家を設立しました。

世界救世教 岡田茂吉

岡田茂吉は病弱で、さまざまな病気を患い続け、薬に頼ることは治癒力を弱めると考えるにいたり、

大正9年に大本に入信しました。

岡田茂吉は1926年に私の腹中に光の玉がある。観音が自分の体に宿ったと言い、

昭和6年に霊界の昼夜逆転によって現世界が明るい昼に転換して、天国的な美の世界となる

天の啓示を受けました。

昭和9年、岡田式神霊指圧療法を始め、昭和10年に茂吉の体に宿った観音の力による

浄霊によって理想世界の建設を目的とする大日本観音会を創立しました。

天照皇大神宮教 北村サヨ

北村サヨは昭和17年、北村家の放火事件があり祈祷師に丑の刻参りと水行をせよと言われました。

サヨは行を続けていたところ、突如として神がかって

昭和19年に自分以外の何者かが肚の中で神の言葉を言い出しました。

翌20年には、宇宙の絶対神とする天照皇大神の降臨を自覚し、自分を天照皇大神宮であると宣言し、

自身を大神様と称するようになりました。

サヨは、無我の境地で自由に手足を動かす無我の舞を信者にさせました。それが踊る宗教です。

霊波之光 波瀬善雄

波瀬善雄は陸軍に入隊したが、結核や腹膜炎を患い余命1ヶ月と宣告され、

神仏に救いを求めて四国に渡り、五剣山中の小さな堂で3週間にわたって座禅を行った。

山頂に登って極限状態になったその時、なんじ神の道を行けという神の声が聞こえ、

たちまちに病気が治った。

昭和29年、善雄は苦行を重ね山々を渡り歩いた苦行中、光霊波が体内に吸い込まれ、

自ら大宇宙神の分神であることを悟った。このとき大宇宙神から使命を託され、

身体から霊波を放射するようになった。

昭和44年に礼拝堂の祭壇に地球儀に乗った善雄像を安置した。

GLA 高橋信次

高橋信次は1968年から幽体離脱のような霊現象が起こるようになり、
霊からの通信を受け、信次の守護霊はイエス・キリストであると知らされ、信次の指導霊は
モーゼであると知らされた。悟りの境地に到達した信次は、エンジニアとして特許を持ち、
高電工業株式会社を経営しながら、宗教家として著作した。
大天使ミカエルにより、信次がこの太陽系霊団の最高責任者エル・ランティであると示され、
その使命としてユートピアの建設、仏教、キリスト教、ユダヤ教、イスラームの統合を目指した。

このように精神異常者の妄想・狂気が発端になっている宗教など信ずるに値しないのです。